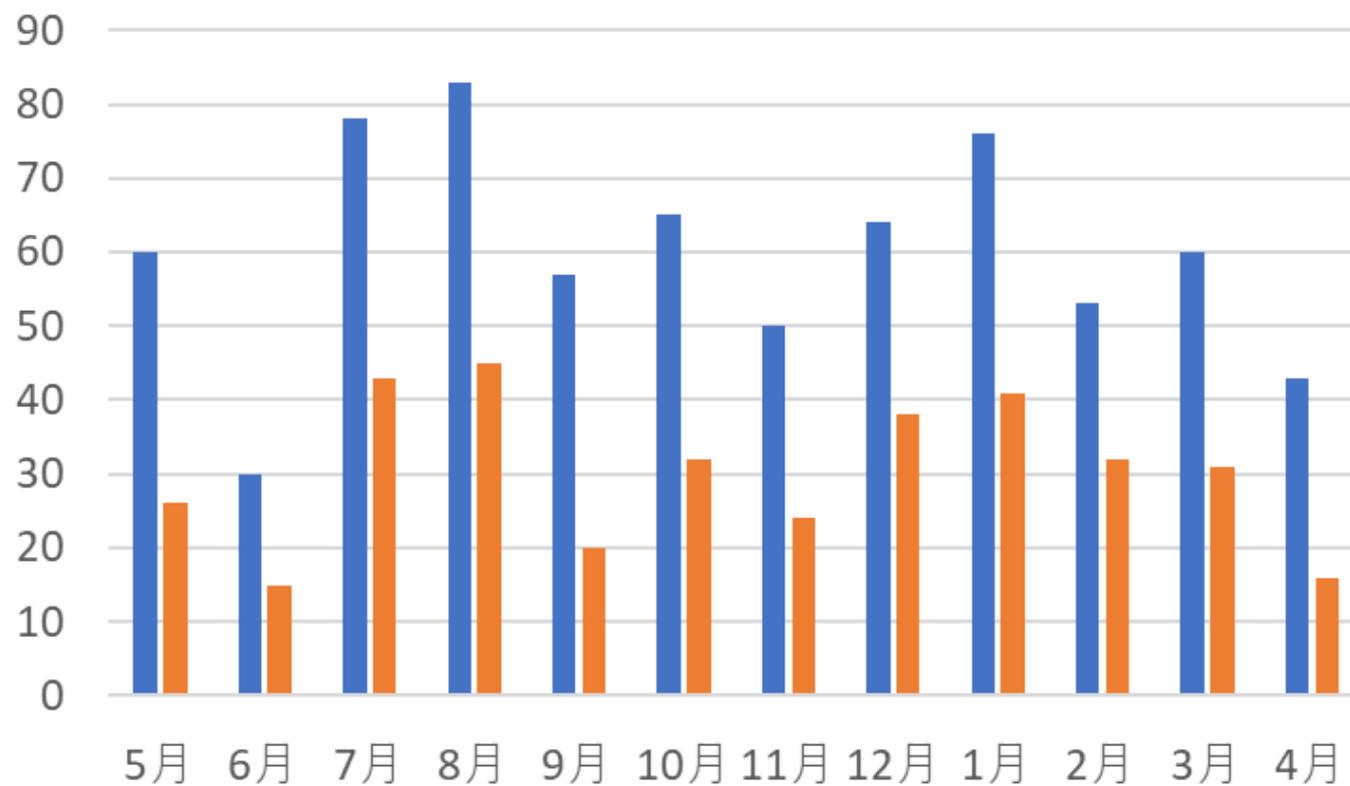


救急・総合診療科
救急部門

2025年6月3日

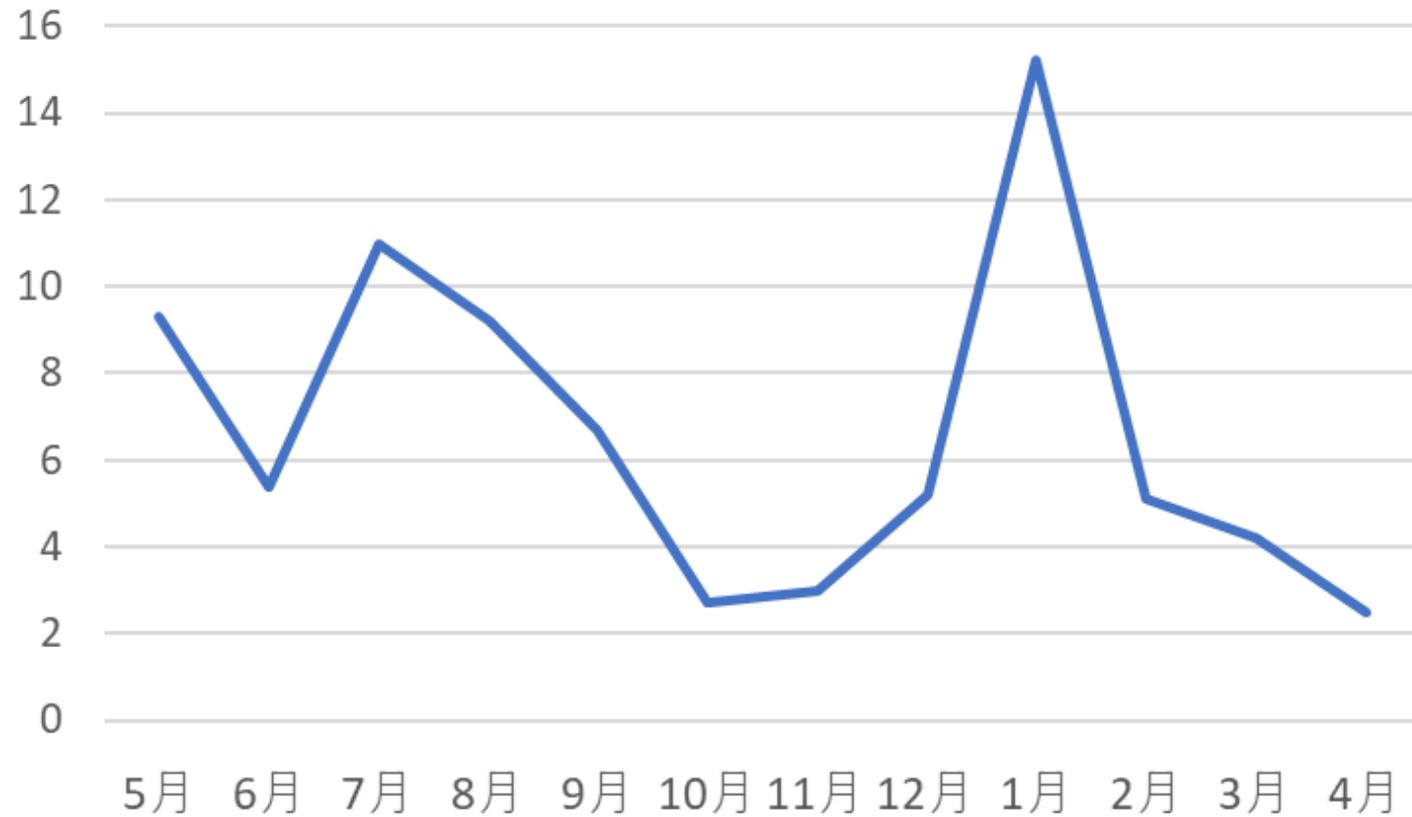
大橋範之

救急車搬入件数および入院患者数



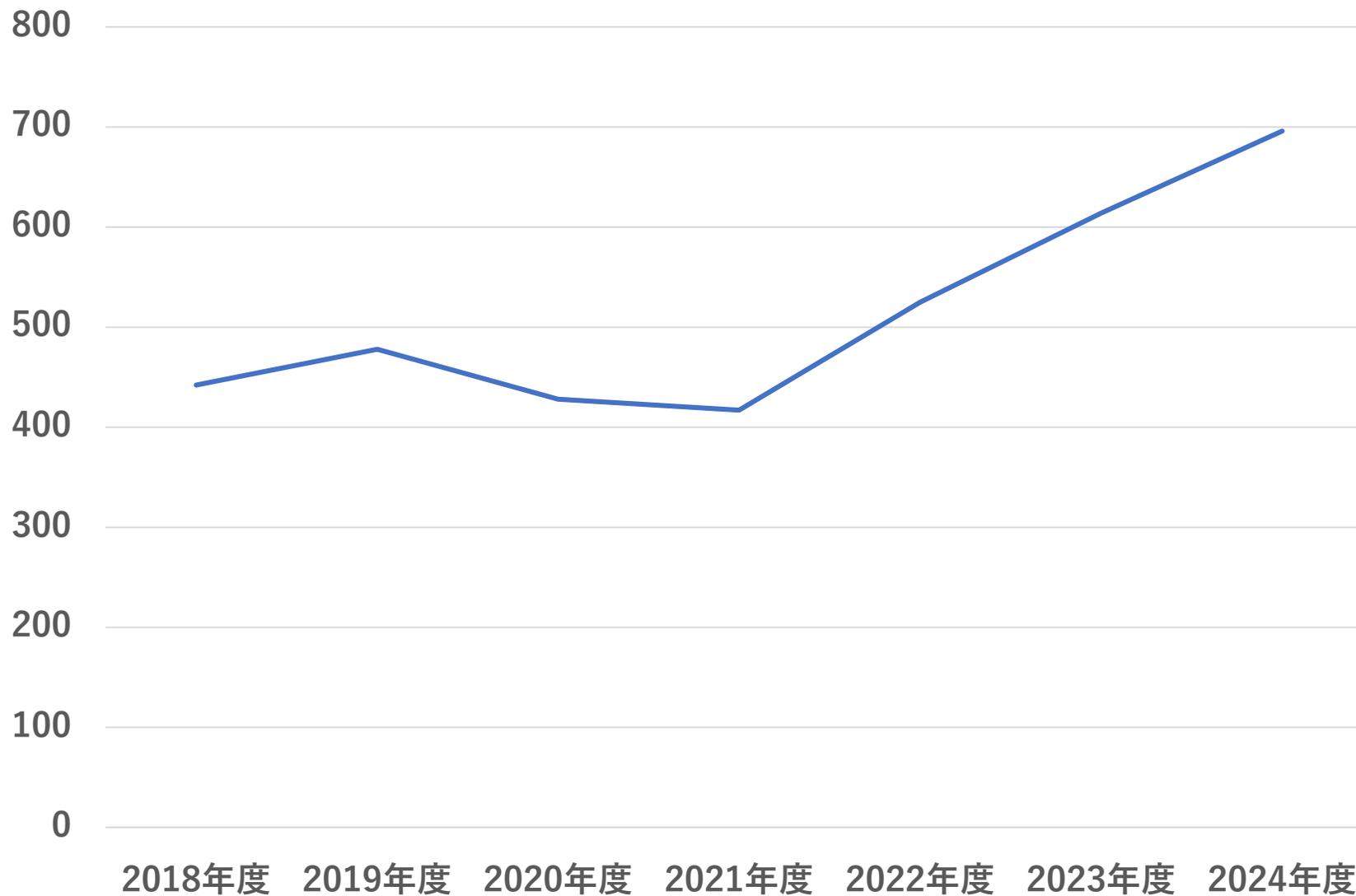
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
60	30	78	83	57	65	50	64	76	53	60	43
26	15	43	45	20	32	24	38	41	32	31	16

救急外来平均受診患者数（1日当たり）



5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
9.3	5.4	11	9.2	6.7	2.7	3	5.2	15.2	5.1	4.2	2.5

年度別救急車搬入数



地域包括医療病棟を新設しました！

地域包括医療病棟

- 高齢者の人口増加に伴い、高齢者の救急搬送車数が増加し、中でも**軽症・中等症が増加**している。
- 急性期病棟に入院した高齢者の一部は、急性期の治療を受けている間に離床が進まず、**ADLが低下**し、急性期から回復期に転院するこ
とになり、在宅復帰が遅くなるケースがあることが報告されてい
る。
- 高齢者の入院患者においては、医療資源投入量の少ない傾向にある
誤嚥性肺炎や尿路感染といった疾患が多い。（高度急性期を担う病
院とは医療資源投入量がミスマッチとなる可能性）
- 誤嚥性肺炎患者に対し**早期にリハビリテーションを実施**すること
は、**死亡率の低下とADLの改善**につながることを示されている。
- 入院時、高齢患者の一定割合が低栄養リスク状態または低栄養であ
る。また、高齢入院患者の**栄養状態不良と生命予後不良は関連**がみ
られる。

地域包括医療病棟

地域包括医療病棟における医療サービスのイメージ



救急患者を受け入れる体制を整備



一定の医療資源を投入し、急性期を速やかに離脱



早期の退院に向け、リハビリ、栄養管理等を提供



退院に向けた支援
適切な意思決定支援



早期の在宅復帰
在宅医療、介護との連携



10対1の看護配置に加えて、療法士、管理栄養士、看護補助者(介護福祉士含む)による高齢者医療に必要な多職種配置

包括的に提供

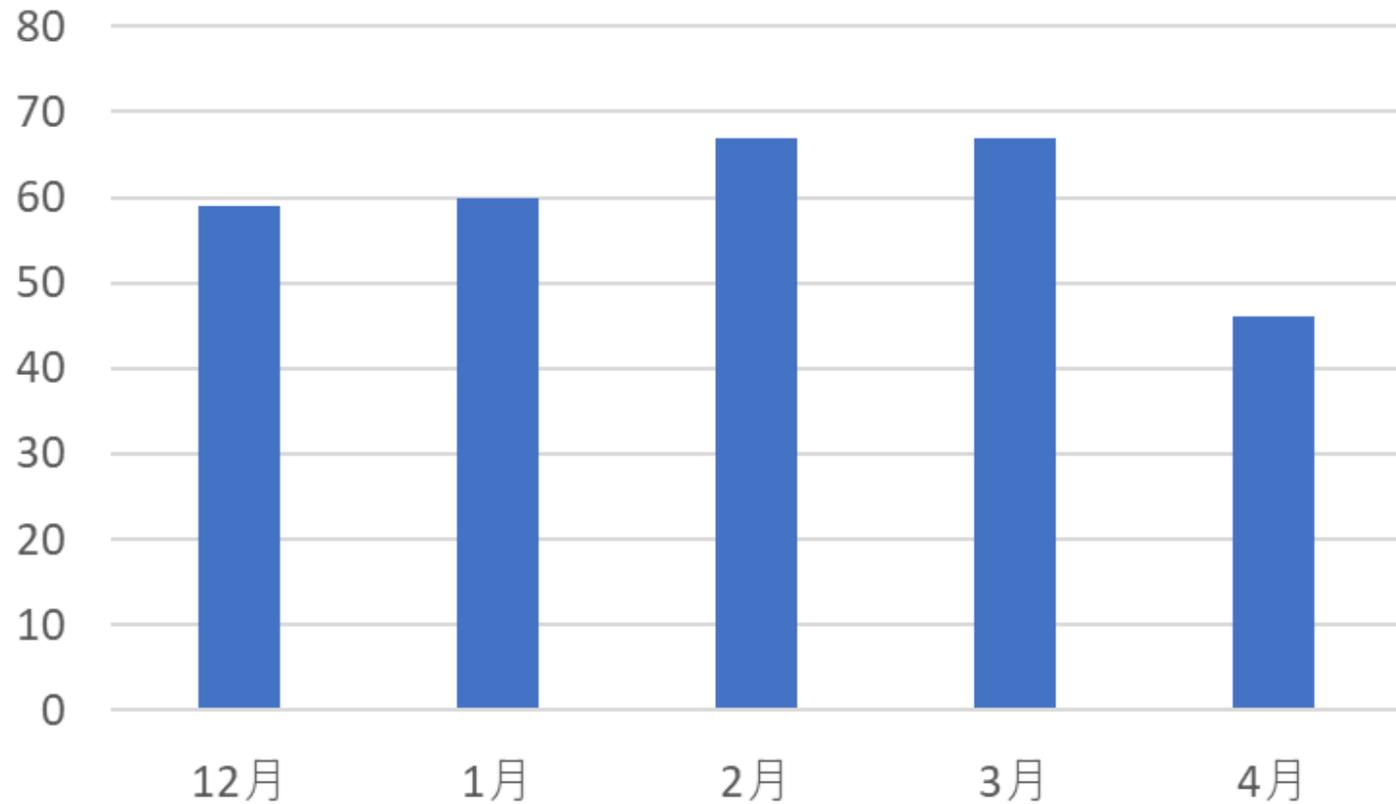
出典：厚生労働省 令和6年度診療報酬改定の概要【入院（地域包括医療病棟）】をもとに作成

URL：<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001251535.pdf>

地域包括医療病棟の要件

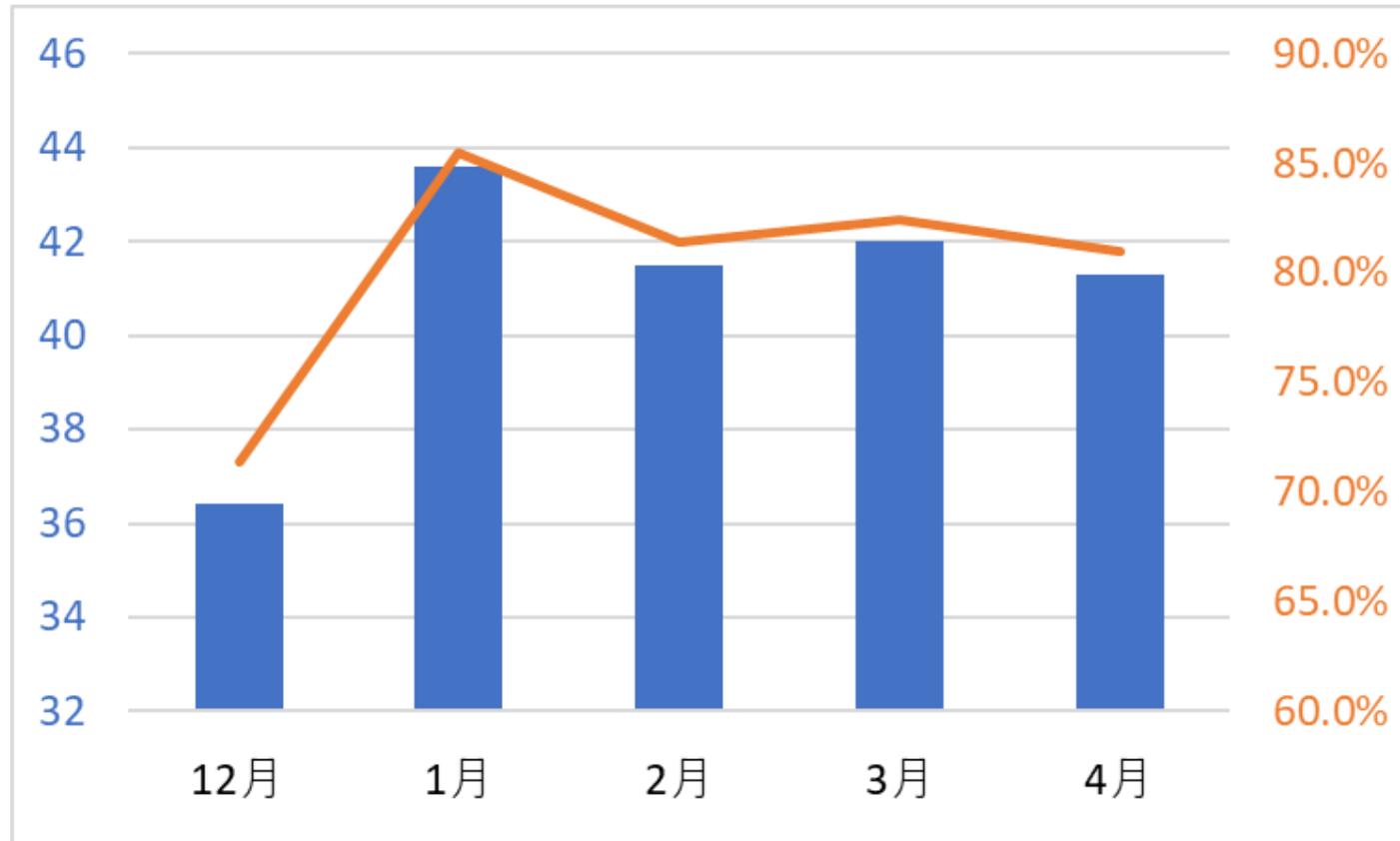
- 看護配置10対1
- 常勤の理学療法士、作業療法士または言語聴覚士が病棟に2人以上
- 専任の管理栄養士が病棟に1人以上
- 平均在院日数21日以内
- 退院患者のうち、自宅等に退院する患者の割合が80%以上

新入院数 (当院4階 地域包括医療病棟)



12月	1月	2月	3月	4月
59	60	67	67	46

平均患者数・病床稼働率（当院4階）



12月	1月	2月	3月	4月
36.4	43.6	41.5	42	41.3
71.4%	85.5%	81.4%	82.4%	81.0%

神戸市立医療センター中央市民病院 と業務提携しました



地方独立行政法人 神戸市民病院機構

神戸市立医療センター中央市民病院

Kobe City Medical Center General Hospital

神戸市立医療センター
中央市民病院

神戸市立医療センター中央市民病院

救急受け入れ疾患例

心臓・血管疾患

- 薬物療法や酸素療法で対応可能な心不全
- カテーテルアブレーション・手術を必要としない不整脈・弁膜症
- 保存的治療可能な大動脈解離

脳卒中

- 血栓溶解療法・カテーテル治療の適応のない急性期脳卒中
- 保存的治療可能な脳出血・血腫

腫瘍関連

- 化学療法後の支持療法（他院で実施した場合も含む）
- 発熱性好中球減少症

消化器疾患

- 急性胆嚢炎
- イレウス

結語

- 救急患者受入れを強化し、県立淡路医療センターのみならず神戸中央市民病院とも連携し、急性期医療により力を入れた体制作りを進めています。
- 地域包括医療病棟を開設し、高齢者の在宅復帰や予後改善にもより良い急性期医療を確立しています。
- 患者数に波がありまだまだ受入れが可能な稼働率ですので、開業医の先生方のご紹介をお待ちしております。